

石川ブロック 連携事業戦略シート

2018年9月21日

公益社団法人日本青年会議所

2019年度 北陸信越地区協議会

石川ブロック

会長 大西 隆章

1 SDGs達成に向けた運動について

国際連合と連携を図るJCIは、国際連合が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の達成を世界的に推進しています。国内においても、認知度向上並びに目標達成の機運を高めていくことを目的に、全国各地で推進されており、各地方においても、地方創生の実現に資するため、その取り組みの推進が重要となってきます。

これまでの取り組みの結果、日本は極めて高い水準の発展を持続的に達成してきた一方で、日本として更に取り組みを強化すべき分野についても指摘されています。

また、国際社会全体の普遍的な目標として17のゴール(目標)、そしてターゲットとして169のターゲットが掲げられており、地方のまちづくりを進める上でこれらを指標にすることで、持続可能で強靱、誰一人取り残さない経済、社会、環境の統合的向上を実現することができます。県民、企業、諸団体等が協働して、強靱な国土と質の高い環境を整備し、住み続けられるまちづくりを実現させます。

2 ブロック連携事業の構築

①地域社会でSDGsを達成していくための事業の企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール4. ターゲット4. 11

(目的)

地域社会でSDGsを達成するために、SDGs運動促進のための推進フレームを策定し、ブロック協議会及びLOM、そして、県民、企業、関係諸団体等が連携してSDGs理解度向上のための教育プログラムを実施し、事業及び結果について適切に広報し、持続可能な開発目標の達成に向けた運動が2019年中に各地で開始され、今後も継続される機会を創出します。

【KPIの設定】前項と連動

有識者によるSDGs教育プログラムの実施 5回の開催

プレスリリースの実施 開催前事業告知及び開催後結果報告 各1回

県内9LOMでのSDGs事業 各1回

【5つの戦略】

1) IMPACT(影響力)

地域社会におけるSDGs達成に向けた経済、社会等の各環境の整備を行い、石川県がSDGs先進都市となることを目指します。

2) MOTIVATE(意欲)

地域社会全体でSDGsへ貢献することによる経済効果及び社会的効果などの教育を行い、自らがまちづくりに取り組む意識を醸成します。

3) INVEST(投資)

教育プログラムの構築、外部講師に投資を行い、県民、企業、諸団体等について実施側と受講側共に対してSDGs達成に向けた当事者意識を醸成します。

4) COLLABORATE(協力)

JCとSDGs推進企業、高等教育機関、受講者等本事業に係る関係者による戦略的かつ持続的パートナーシップを構築し、協力して運動を展開し、その必要性を地域の人々に周知します。

5) CONNECT(つながり)

JCがハブとなり、民間企業や高等教育機関、地方公共団体等のステークホルダーをつなげ、地域においてSDGsに対する取り組みが継続的に展開される環境を構築します。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 地域社会においてもSDGsを浸透させ、運動を自ら展開する能動的市民を育むため。

How(手法): それぞれの関係者を巻き込んで、SDGsについて知る機会、考える機会を創出し、地域社会に浸透させます。

What(対象): 地域にけるSDGs運動促進のための運動推進フレームを策定し、SDGs理解度向上に向けた有識者による教育プログラムを実施し、さらなる周知を図るために事業前の開催告知及び事業後の結果についてプレスリリースを行い適切に広報します。

【外部協力者・種別】

金沢工業大学情報フロンティア学部経営学科 平本督太郎(講師)

金沢大学 里山里海プロジェクト 伊藤 浩二(講師)

会宝産業株式会社 代表取締役 近藤 典彦(講師)

国連大学OUKI 事務局長 永井美恵子(アドバイザー)

JICA北陸 支部長 仁田知樹(アドバイザー)

石川県産業創出支援機構 産業支援課(広報及び情報発信)

石川県生活環境部(広報及び情報発信)

②地域に則した社会保障制度と地域のあり方を考える事業の企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール1. ターゲット1. 3

(目的)

誰一人取り残されない社会を実現するために、県民の安心と生活の安定を支える重要なセーフティーネットである社会保障制度及び対策について調査研究し、その結果に基づいて自治体に対して提言を行い、選挙における公開討論会の場において候補者それぞれの立場から社会保障制度にふれてもらい、そして討論会を行うことにより県民に制度の周知を図り、もって県民自らが選択する社会を実現します。

【KPIの設定】前項と連動

社会保証制度の調査結果に基づくより良い社会保障実現に向けた提言の策定 1回

社会保障制度討論会の開催 1回

社会保障制度討論会参加人数 300人の達成

プレスリリース 討論会の開催前事業告知及び開催後結果報告 各1回

提言の公開 討論会にて1回

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

地域社会における社会保障制度について住民自ら考える機会を創出し、将来の来るべき社会に備えて、自分の未来を考えるのと同時に、支え合いの精神の醸成を行い、セーフティーネットが確立された誰一人取り残されない地域社会を実現します。

2)MOTIVATE(意欲)

大変革の時代、先行き不透明な社会において、今、知っておかなければならない情報の提供を行い、その重要性を理解してもらうとともに学ぶ意欲を醸成します。

3)INVEST(投資)

社会保障制度の調査研究及び広報、提言の策定に投資を行い、社会保障制度を周知し、より良い社会保障制度の実現を促します。

4)COLLABORATE(協力)

JCと石川県社会保障推進協議会等の関係諸団体、地方公共団体等による戦略的かつ持続的パートナーシップを構築し、協力して運動を展開し、地域の人々に制度の周知を図り理解度を向上します。

5)CONNECT(つながり)

JCがハブとなり石川県社会保障推進協議会等の関係諸団体、地方公共団体等のステークホルダーをつなげ、社会保障制度が行き渡った地域の実現を目指します。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由):誰も取り残されない社会の実現に向けて、一人ひとりが考えて理解し、一人ひとりが行動する必要があるため。

How(手法):社会保障制度について、調査結果に基づいて社会保障政策について然るべき機関に要望し、県民自らが考える機会と知る機会を創出し、地域社会に浸透させます。

What(対象):社会保障制度について調査研究を行い、その結果に基づいて社会保障政策に関する提言を策定、自治体に対して提言を行い、討論会で公表するとともに選挙に係る公開討論会で社会保障制度についてふれてもらい、さらなる周知を図るために事業前の開催告知及び事業後の結果についてプレスリリースを行い適切に広報します。

【外部協力者・種別】

石川県社会保障推進協議会(アドバイザー、情報提供、実施主体)

石川県社会福祉協議会(アドバイザー、情報提供、実施主体)

石川県健康福祉部長寿社会課(アドバイザー、情報提供、実施主体)

石川県健康福祉部厚生政策課(アドバイザー、情報提供、実施主体)

③多子社会を実現する議論の推進

【SDGs設定】

I. ゴール8. ターゲット8. 5

(目的)

急速な少子化の進展に歯止めをかけるために、社会における様々なシステムや人々の結婚や出産に対する価値観を調査研究し、その結果に基づいて自治体に対して提言を行い、選挙における公開討論会の場において候補者それぞれの立場から少子化対策をテーマにした政策を掲げていただくと同時にそれについて議論してもらい、そして講演会を行うことにより、県民が家庭や子育てに夢を持ち、かつ、時代の社会を担う子供を安心して生み育てることができる環境の構築を目指します。

【KPIの設定】前項と連動

調査研究結果に基づく提言の策定 1回

講演会の開催 1回

講演会の参加人数 300人の達成

プレスリリース 講演会の開催前事業告知及び開催後結果報告 各1回

提言の公開 1回

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

地域社会において多子社会実現に向けた意識を喚起する機会を創出し、特に若者に対して結婚や出産に対する意識変革を行い、子供が等しく心身ともに健やかに育ち、子供を生き育てる者が真に誇りと喜びを感じることができる地域社会を実現します。

2) MOTIVATE(意欲)

少子化という社会の根幹を揺るがしかねない事態に対する理解度を深め、社会のシステムなどの情報提供を行い、そして生命を尊び、豊かで安心して暮らすことのできる社会の実現に向け、新たな一歩を踏み出す意欲を醸成します。

3) INVEST(投資)

社会のシステムなどの調査研究及び広報、提言の策定に投資を行い、少子化に対する知識や新たな考え方を植え付け、当事者意識を醸成します。

4) COLLABORATE(協力)

JCと公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団等の関係諸団体、地方公共団体による戦略的かつ持続的パートナーシップを構築し、協力して運動を展開し、地域の人々にあらゆる情報を提供し理解度を深めます。

5) CONNECT(つながり)

JCがハブとなり、公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団等の関係諸団体、地方公共団体等のステークホルダーをつなげ、子育て世代にとって住みよいまちづくりを目指します。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 多子社会の実現に向けて議論を巻き起こし、個人の自由を尊重しつつ一人ひとりが能動的に行動する必要があるため。

How(手法): 社会における様々なシステムなどの調査結果に基づいて、総合的な少子化施策について然るべき機関に要望し、県民自らが考える機会と知る機会を創出し、地域社会に浸透させます。

What(対象): 多子社会実現に向けて社会における様々なシステムなどを調査研究し、その結果に基づいて多子社会実現に関する提言を策定、提言を行い公開するとともに、選挙に係る公開討論会でふれてもらい、さらなる周知を図るために事業前の開催告知及び事業後の結果についてプレスリリースを行い適切に広報します。

【外部協力者・種別】

石川県健康福祉部少子化対策監室子供政策課(アドバイザー、情報提供、実施主体)

石川県健康福祉部少子化対策監室子育て支援課(アドバイザー、情報提供、実施主体)

石川県健康福祉部少子化対策監室結婚支援ワークライフバランス推進グループ(アドバイザー、情報提供、実施主体)

いしかわエンゼルプラン2015推進協議会(アドバイザー、情報提供、実施主体)

子育てにやさしい企業推進協議会(アドバイザー、情報提供、実施主体)

公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団(アドバイザー、情報提供、実施主体)

④ブロックと連携した会員拡大支援の企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール4. ターゲット4. 11

(目的)

男女問わず地域社会に変革をもたらす多くのリーダーを排出するために、ブロックアカデミー事業と関連してメンバーの拡大意欲向上のためのセミナーを開催し、ブロック内女性会員のネットワークを形成して拡大への積極的な参画を促し、ブロック協議会及びLOM、日本JCが連携して、会員を拡大するにあたり有益な情報や拡大ツールを1箇所に集積するとともに2019年度中にデータベース化を行い提供するとともに、存続が危ぶまれる小規模LOMには深く寄り添い、各LOMの強固な組織基盤形成を支援します。

【KPIの設定】前項と連動

女性会員懇談会 1回

拡大セミナーの開催 1回

拡大セミナー参加人数 300人

石川ブロック協議会所管内 2020年年初会員数400名、拡大人数のうち女性会員の占める割合30%達成

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

各LOMに寄り添い、拡大支援を行い、LOMの強固な組織基盤の形成し、JCの社会的活動を継続させ、男女問わず地域に変革をもたらす多くのリーダーを輩出し、社会の多様性を実現します。

2)MOTIVATE(意欲)

会員拡大の楽しさや意義を正しく伝える拡大セミナーや女性会員同士が意見交換を行い、実際の会員拡大につなげ、成功体験をつみ、拡大意欲の向上を図ります。

3)INVEST(投資)

情報の共有化を図るため、データベースを構築、環境整備に対して投資を行い、会員を拡大します。

4)COLLABORATE(協力)

JCと各LOM、したシニアメンバーによる持続的パートナーシップを構築することにより、対象者情報の共有化を図り、協力して運動を展開し、会員を拡大します。

5)CONNECT(つながり)

JCがハブとなり、各LOMとニアメンバーをつなげ、会員拡大が継続し、さらなる会員拡大につながる仕組みを構築します。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 持続可能な組織としてその組織基盤の確立し、女性を含む青年に成長の機会を与え、地域に変革をもたらす多くのリーダーを排出し、女性がさらに活躍できる社会を目指す必要があるため。

How(手法): 各LOMと拡大に有益な情報やツールを共有し、拡大意欲の向上を図ります。

What(対象): 拡大セミナーの開催、拡大ツールや成功事例、対象者情報のデータベース化及び情報提供をします。

【外部協力者・種別】

県内各LOMを卒業したシニアメンバー(成功事例や対象者情報の提供)

日本JCJC 拡大会議(ツールの提供)

⑤ブロックアカデミー事業と連携したカリキュラムの企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール4. ターゲット4. 11

(目的)

地域社会に変革をもたらす多くのリーダーを排出するために、メンバー向けブロックアカデミー事業を開催し、ブロック協議会及びLOM、日本JC、ヘッドトレーナー等が連携して、JC及びそのメンバーの変革者たる当事者意識を呼び起こし、メンバー個人の資質向上を図ることにより、各LOMの強固な組織基盤形成を支援します。

【KPIの設定】前項と連動

メンバー向けブロックアカデミー関連プログラムの開催 3回

メンバー向けブロックアカデミー関連プログラムの参加人数 150名

【5つの戦略】

1) IMPACT(影響力)

会員の当事者意識と資質向上に向けた支援を行い、LOMの強固な組織基盤を形成し、JCの社会的活動を継続させ、地域に変革をもたらす多くのリーダーを輩出し、地方創生を実現します。

2) MOTIVATE(意欲)

JC運動の意義、目的を正しく伝えるブロックアカデミー関連プログラムを行い、地域の問題を解決するといった当事者意識を育み、責任感や使命感を植え付けることにより、JC活動の意欲向上を図ります。

3)INVEST(投資)

プログラムの開催に投資を行い、メンバーの資質向上に向けた効果の最大化を図ります。

4)COLLABORATE(協力)

JCと各LOM、日本JC、ヘッドトレーナーやシニアメンバーによる持続的パートナーシップを構築することにより、プログラムの定期開催を実現し、協力して運動を展開し、メンバーの資質向上、JC活動に対する意欲を向上します。

5)CONNECT(つながり)

JCがハブとなり、各LOM、日本JC、ヘッドトレーナーやシニアメンバーをつなげ、メンバーの資質向上に向けた取り組みが継続される仕組みを構築します。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由):持続可能な組織としてその組織基盤を確立し、女性を含む青年に成長の機会を与え、地域に変革をもたらす多くのリーダーを輩出する必要があるため。

How(手法):JCの存在意義や本質的部分を理解する機会を与え、JC活動の意欲向上を図ります。

What(対象):ブロックアカデミー、JCプログラム及びシニアメンバーによる講義等を継続的に開催します。

【外部協力者・種別】

日本JCJCプログラム推進委員会(実施支援)

ヘッドトレーナー(実施支援)

シニアメンバー(実施支援)

3 アクションプラン

3.1 ブロック協議会としての役割

ブロック協議会は各LOMが各々の活動の中で、成果の最大化を図るために積極的に取り組むことができるように、情報共有や各種調整を行い、各種支援を行っていくといった本会が行うLOM支援を直接的に行う立場です。ブロック協議会として各LOMと日本JC、そして各LOM同士をつなげるハブとして有機的に機能することにより、地域を超えた持続可能な開発目標を達成することを目指す必要があります。また、各LOMから要望を抽出し、その要望に対して的確にサポートを行うことも必要不可欠です。さらに、各LOM単独では成し得ない、または、ある程度地域を広げて包括的に行うべき事業についての実施主体としての役割もあります。そして、ブロック協議会は日本JCの運動を各LOMに伝え、各LOMと日本JCが足並みを揃え、同じ方向性をもって運動を推進していくためのパイプ役としての役割があります。その運動や情報を的確かつ迅速に発信していくとともに、必要な支援を行っていかなければなりません。

各LOMの地域における運動と日本JCが発信する運動が一体となり、誰一人取り残されない持続可能な社会の実現を目指していく必要があります。

3.2 ブロック独自の事業

いしかわコンファレンスの開催

地方創生に関するフォーラムの開催

地域ブランド確立事業

3.3 1年後の姿

まずは、地域社会としてSDGsについて考え行動していくことで当事者意識が芽生えます。そして、運動が地域全体で推進されれば、SDGs先進都市としての位置が確立され、交流人口の増加などあらゆる社会資源が集まり、社会的効果と経済的効果が生まれます。そのことが地域に好循環をもたらし、更なる地域発展が望めます。また、誰一人取り残されない社会の実現にむけて、地域社会における社会保障制度について調査研究するとともに、地域の人々が自ら情報を得て選択することで情報不足による社会保障の抜けを防ぐことができます。さらに、多子社会の実現に向けてまずは地域社会で議論を巻き起こし関心を深め、社会のシステムを正しく理解するとともに、結婚や出産に対する意識変革を行うことにより、子供が等しく心身ともに健やかに育ち、子供を生み育てる者が真に誇りと喜びを感じることができる地域社会が実現され、そして生命を尊び、豊かで安心して暮らせる基盤が形成されます。それにより、本来の意義である地域住民が自ら住むまちのことを考え行動に移すといった能動的市民を育み、自立自活した地域が醸成されます。そして、この運動を進めるにあたり、先導的役割を果たすLOMの組織的基盤が強固なものとなり、あらゆる運動を強く押し進める推進エンジンとして地域社会に対してインパクトを与え続け、さらに地域社会の形成に寄与していきます。

以上。